

公益社団法人神戸女学院めぐみ会

2020年度（令和2年度）事業報告

自2020年（令和2年）4月1日 至2021年（令和3年）3月31日

◆事業部門

I. 公益目的事業

1. 公益目的事業1

学校法人神戸女学院の教育・研究を振興し、私立学校による女子教育のより一層の充実を図り、有能な人材を世に送り出すことをもって社会に貢献する事業

(1) 学院めぐみ教育基金寄付

【事業の内容】神戸女学院が国内外からすぐれた学者、教育者を客員教員として招聘するための基金への寄付をする。

【実績・成果】神戸女学院愛校バザーを2020年10月31日（土）に神戸女学院と共催予定であったが、バザーは新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。そのため収益は得られなかったが、中止にもかかわらず寄せられたバザー寄付より150万円を寄付した。

(2) 学生生徒活動の助成金

【事業の内容】神戸女学院の学生生徒の国際交流活動・社会貢献活動への助成をする。

【実績・成果】新型コロナウイルス感染拡大の影響により神戸女学院愛校バザーが中止となり収益が得られなかったため、学生生徒活動への助成はゼロとした。

(3) 学院事業協賛寄付

【事業の内容】神戸女学院への寄付として指定された寄付金による寄付、キリスト教挙式サポート事業による学院への寄付をする。

【実績・成果】神戸女学院教育振興会（学院の寄付受付窓口）及び神戸女学院への寄付として当法人が受けた寄付710,000円を学院に寄付した。

キリスト教挙式サポート事業（学院施設のソール・チャペルにおける挙式）を当法人が運営し、経費を差し引いた挙式料435,000円を学院に寄付した。

2020年度挙式件数：8件

(4) めぐみ会賞の授与

【事業の内容】神戸女学院の学生・生徒の自主的な活動を称え、支援する。

神戸女学院の立学の精神にふさわしい課外活動を行っている大学学生、中高部生徒の団体に賞金または記念品を授与する。

【実績・成果】神戸女学院大学・中高部から推薦のあった大学15団体、中高部2団体の中から、めぐみ会賞規程の選考基準に基づき、理事会において検討・選出し、次のとおり授与した。

2021年1月19日（火）大学「学生YMCA」「スカッシュラケット部」各団体に5万円授与

2021年1月25日（月）中高部「雫の会」「秋のこども会」各団体に記念品授与

◎公益目的事業1実施のための財源

- ・神戸女学院愛校バザー開催時に会員から寄せられる寄付金及びバザー収益
- ・キリスト教挙式サポート事業
- ・寄付者が学院への寄付として指定した寄付

2. 公益目的事業2

信仰を育成し、知性を深めるための講演会・研究会・教室等の開催により生涯教育の場を広く一般に提供し、豊かな人間性を涵養する事業

当事業は、関心のある者すべてに公開されている。その周知方法はめぐみ会ホームページ、めぐみ会公式SNSへの掲載・ポスターの掲示・チラシの配布・新聞、行政の発行物への掲載等である。

(1) 2020めぐみ講演会

【事業の内容】知性を深めるための講演会を開催して、広く一般を対象に生涯教育の場を提供し、豊

かな人間性を育む。

【実績・成果】

- ・「映画の国の住人になるために ～映画制作の仕事～」

10月31日（土）

11月12日（木）～30日（月）Web配信も実施

講師：映画監督／Film maker 三島 有紀子氏

会場：神戸女学院講堂

来場受講者数 185名・Web配信含むチケット購入者 291名

10月の講演会は来場人数を抑えるため、受講者に受講の方法を選択してもらえるようWeb配信も実施した。

7月2日（木）に予定していた「知っておきたい眼の病気と最新治療」（講師：眼科医 片上 千加子氏）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催を中止した。

【課題】より幅広い広報に努めてきた講演会事業ではあるが、2020年度は状況が不安定なことから積極的な広報を控えざるを得なかった。平常に戻れば、今後も従来通りの広報等を通じ、積極的にアピールしたい。

また、受講方法の選択肢を複数用意したことについてはアンケート回答で概ね好評だったので、将来的な事業の実施方法を考えるよききっかけとしたい。

(2) 2020 キリスト教セミナー

【事業の内容】キリスト教についての理解を深める講座を開催することにより、キリスト教的教養を涵養し、信仰を育成する。

【実績・成果】

イエスの奇跡伝承を考える

第1回 2021年1月26日（火）～2月28日（日）Web配信

「奇跡伝承一どのように読まれてきたか」

講師：学校法人神戸女学院 理事長・院長 飯 謙氏

受講者数 45名

第2回 2021年2月9日（火）～2月28日（日）Web配信

「五つのパンと二匹の魚（マルコ6章）一多様な読み」

講師：神戸女学院大学非常勤講師・同志社大学嘱託講師 入 順子氏

受講者数 47名

今年度は新しい試みとして2人の講師に担当してもらった。講師の工夫により1つのテーマを別の視点から講義するスタイルはアンケート結果でも好評であった。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、Web配信の形で実施した。

【課題】第1回はライブ配信を試みたが、想定外の通信障害により、後日配信とした。通信障害をはじめWeb配信に伴うトラブルを回避するための方法を模索していく。また、高齢の受講者も多いことから情報格差への配慮も忘れないようにしたい。

(3) 2020 アートセミナー

【事業の内容】芸術・文化に関するセミナーを開催することで、広く一般を対象に知識・教養を習得し、見識を深める機会を提供する。

【実績・成果】

- ・古典倶楽部 ～テーマに沿って高校の教科書を読み直す～ 生きているものたち

講師：元神戸女学院中高部非常勤講師 錦田 靖子氏

会場：めぐみ会館

前期3回、5月15日（金）、6月12日（金）、7月10日（金）に予定していた「動物たち」

（第1回〈鳥〉、第2回〈犬〉、第3回〈猫〉）は、新型コロナウイルス感染拡大によりいずれも中止、後期は感染防止策を徹底して実施した。

後期 「三大随筆」

第1回 10月2日（金） 『枕草子』 受講者数 20名

第2回 11月6日（金） 『方丈記』 受講者数 20名

第3回 12月4日（金） 『徒然草』 受講者数 20名

また岡田 裕成氏（大阪大学文学研究科教授、神戸女学院大学文学部総合文化学科非常勤講師）による「ルネサンス美術の二都を歩く」、第1回6月8日（月）、第2回6月22日（月）のセミナーは、新型コロナウイルス感染拡大により両日ともに開催を中止した。

【課題】「古典倶楽部」では、講師と受講生が双方向に対話しながら進められる形態を企画していたが、前期は中止、後期も感染を避けるために実現できなかった。
今後も状況を考慮し、必要な場合は Web 配信もうまく組み入れながら受講者が学びやすい環境を整えることを目指したい。

(4) 「神戸女学院めぐみ教育基金」招聘教員による特別講演会

【事業の内容】学院創立75周年、90周年にめぐみ会が募った学院への寄付金を基金として、毎年バザー収益金から追加寄付している「めぐみ教育基金」をもとに、神戸女学院大学が国内外から招聘している客員教員に講演を依頼。広く一般の方に参加していただく。

【実績・成果】

神戸女学院大学音楽学部音楽学科客員教授 勝見 祐子氏による講演会を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で米国在住の勝見氏が来日できず（授業はオンラインで実施）実施できなかった。

(5) 講話会

【事業の内容】神戸女学院が宗教強調週間に招く講師を迎え、講話会を開催し、神戸女学院の教育の基礎であるキリスト教に触れる機会を提供する。

【実績・成果】11月12日（木）開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため講師が来校できず、講話会は実施できなかった。

・毎年同日開催している合同追悼会は、理事、監事、委員のみがめぐみ会館に集まり、永眠者179名を追悼した。

【課題】2021年度も対面開催が不可能な場合は、開催方法（例えば Web 配信など）を検討する。

(6) 外国語教室

【事業の内容】主にネイティブスピーカーを講師とする教室を開催し、単に外国語を学習するだけでなく国際相互理解の促進を図る。

英語教室 [金曜日クラス] 講師： Nathaniel Carney
[水曜日クラス] 講師： 小寺 里砂

【実績・成果】

・場所：めぐみ会館

受講者・レッスン数 前期：新型コロナウイルス感染拡大により休講
後期：[金曜日クラス] 10名 [水曜日クラス] 8名
合計18名 各10レッスン

【課題】多くの方に興味を持っていただけるような授業内容を取り入れ、受講者の増員に努める。

(7) 音楽教室

【事業の内容】地域の人々や学生・生徒に、生涯教育の一環として豊かな情緒を育む音楽教育の場を提供する。質の高い指導を廉価で提供する。

場所：めぐみ会館内の音楽室

講師：

・ピアノ 熊谷 啓子 山本 江利 島 敏子 新野 ダリア
・オルガン 片桐 聖子 前田 直子 大野 明子
・チェンバロ 上野 静江
・ヴァイオリン 菊本 恭子 藤原 由美子 田原口 安代
・フルート 吉村 麻衣子 松田 晴香
・声楽／ヴォイストレーニング 山本 基子 三輪 智子 松田 緑 西田 真由子

【実績・成果】

・楽器別受講者数及びレッスン数 ※前期は新型コロナウイルス感染拡大により休講

ピアノ	前期：休講	後期：24名、242レッスン
オルガン	前期：休講	後期：21名、152レッスン
チェンバロ	前期：休講	後期：4名、26レッスン
ヴァイオリン	前期：休講	後期：7名、59レッスン
フルート	前期：休講	後期：3名、19レッスン
声楽／ヴォイストレーニング	前期：休講	後期：18名、160レッスン
合計	前期：休講	後期：77名、658レッスン

- ・音楽教室の日頃のレッスン成果を発表する場として、3月25日（木）めぐみ会館にておさらい会を開催 出演者数 30名

【課題】より多くの一般の受講者を増やすべく、広報に努める。

(8) 各支部において一般公開の講演会や音楽会を開催する。

各支部で計画していた講演会・音楽会等は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からすべて中止した。

◎公益目的事業2実施のための財源

講演会・セミナー・教室の開催時に低廉な参加費を徴収

3. 公益目的事業3

神戸女学院在学中の受入れ留学生を含む在学学生及び卒業生に対する奨学金の授与により、学術、文化及び教育の振興・普及、国際相互理解の促進を通じて社会に貢献する事業

【事業の内容】

- ・卒業支援奨学金 対象：学費の補助を必要とする神戸女学院大学学生、中高部生徒
- ・修学支援奨学金 対象：学費の補助を必要とする神戸女学院大学2年生
- ・海外留学奨学金 対象：神戸女学院大学認定留学制度を利用して海外留学を行う学生
- ・受入れ留学生奨学金 対象：神戸女学院大学・大学院に在学中の受入れ留学生
- ・研究奨励奨学金 対象：国内外の大学院等において研究中の会員
- ・辻秀子奨学金 対象：キリスト教や聖書について研究中等の会員

【実績・成果】

各奨学金に関して審議会（審議員5名）を開催。以下の授与候補者が理事会に推薦され、理事会にて承認された。

- ・卒業支援奨学金：大学2年生1名（373,500円）
高等学部生徒1名（32,150円）
- ・修学支援奨学金：大学2年生1名（月額3万円を4年生までの3年間）
（対象の大学3年生1名、4年生1名については引き続き授与）
- ・研究奨励奨学金：1名（20万円）

海外留学奨学金、受入れ留学生奨学金の募集は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により見送った。

なお今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により著しく生活の困窮が見られた学生、生徒に対し、「2020年度限りの緊急支援奨学金」として合計1,080万円の授与を、理事会決議を経て行った。

- ・神戸女学院めぐみ会緊急支援奨学金：大学生25名（各36万円）
中高部生徒1名（30万円）
- ・神戸女学院大学緊急支援奨学金：5名（各30万円）

【課題】今年度見送った海外留学奨学金、受入れ留学生奨学金の募集を2021年度は再開する予定だが、引き続き状況を見守りながら大学国際交流センターと連携していく。

◎公益目的事業3実施のための財源

奨学資金積立基金資産およびその他の特定資産の運用益ならびに奨学金指定寄付

その他の公益目的事業

- ・神戸女学院の在學生及び卒業生の有する各種技能・能力を社会に活かすためのコーディネート活動
- ・ホームページ、公式 SNS による広報活動、法人情報公開
- ・災害被害者支援
「九州豪雨災害救済寄付」として 50 万円を公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団に寄託

II. 収益事業

1. 結婚支援事業

【事業の内容】MMS (Megumi Marriage System) の運営

当法人の結婚支援事業は、1976年に事業開始以来長年の実績があり、当法人関係者に結婚のための出会いの場を提供している事業である。また、役員を含む会員が無報酬で運営に携わっており、会場が当法人所有の会館であるため、費用は一般の結婚紹介企業と比べて廉価である。より良いサービスの提供と業務改善を図るため、2020年度、MMSシステムの導入を開始した。

【実績・成果】

相談会 16 回、お見合い 104 件、婚約 3 件、登録者 261 名

新型コロナウイルス感染拡大で緊急事態宣言が発令されたため、4、5月は休業した。

III. その他の事業

【事業の内容及び実績】当法人の会員は、神戸女学院で受けた教育をめぐみと受け止め、その感謝を公益目的事業として具現化している。そのめぐみを確認し、事業遂行の推進力とするために、「その他の事業」として、会員の友誼を深めるための行事を開催している。会員はそれぞれ支部に所属し各支部では地域の独自性を生かしながら支部会を開催している。また、会員が当法人の理念を確認する手段として、年 1 回会員向けに広報誌『めぐみ』を発行し、当法人の事業・会員についての情報及び学校法人神戸女学院の情報を発信している。その他、当法人のオリジナルグッズを企画し、販売している。

1. 会員の友誼を深めるための行事の開催

- ・各支部における支部会の開催
新型コロナウイルス感染拡大のため、唯一ニューヨーク支部が 8/20、12/12 に Web 支部会開催、他は中止
- ・6月25日(木)に開催を予定していた支部長会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

2. 広報誌『めぐみ』109号の発行 5月1日(金) 発行部数 36,100部

3. 記念品事業

- ・オリジナルグッズの企画と販売

4. 収蔵資料の管理

- ・めぐみライブラリー(資料閲覧室)を整備した。

◆管理部門

I. 法人管理

1. 総会の開催

- ・2020年度定時総会 6月25日(木) 新型コロナ感染拡大防止のため書面による議決権行使の形式での開催

2. 理事会の開催

- ・定例理事会 年間 11 回(8月を除く) 5月理事会は、書面による決議
- ・臨時理事会 2 回(6月4日(水)、6月25日(木)) 6月4日は、Web 会議

II. 規則整備

- ・職員就業規則 改正
- ・MMS 会員規約 改正

III. 会員データの管理と整備

IV. 会館管理

- ・長期計画に基づく維持管理
空調設備の改修工事を行った。

V. コンピュータシステムの総合管理

◆神戸女学院への協力

以下の委員会に構成員を送った

- ・学院理事会・学院評議員会
- ・学院教育振興会役員会
- ・学院めぐみ教育基金運営委員会
- ・学院愛校バザー実行委員会
- ・学院 KC・KCC 関係国際交流委員会
- ・学院カレンダー委員会

付属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特に無い。